京都文化博物館　別館ガイド



辰野金吾
（1854～1919）

京都文化博物館の別館は明治39(1906)年に日本銀行の京都支店として建てられました。
設計者は東京駅や日本銀行本店などをつくった辰野金吾と、その弟子長野宇平治です。
彼の建築の特徴のひとつは、赤いレンガに帯状の白い花崗岩を巡らせることです。
「辰野式」とよばれる建築様式は後の建築家にも大きな影響を与えました。



長野宇平治
（1867～1937）

別館のレンガを触ってみよう！



レンガとレンガの間に、かまぼこ状に盛り上がった継ぎ目があるのがわかるかな？
レンガを「かまぼこ状」に積み上げる技術（覆輪目地の工事をおこなう技術）は現代には伝承されておらず、明治時代の職人さんの技術の高さを知ることができるよ。レンガの美しさが際立っているね！

なぜ窓が落下しないのかな？どうなっているのかな？

窓を上げ下げしてみよう。途中で止まるね！
どういう仕組みになっているのかな？

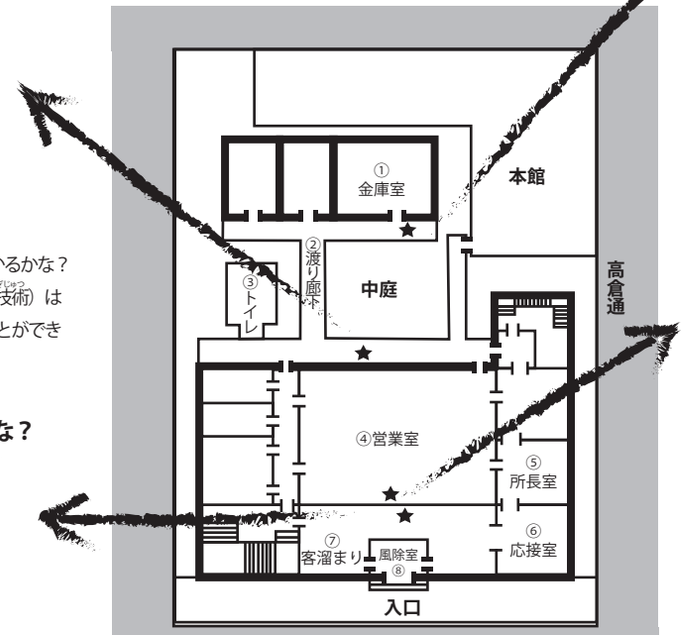




正解は・・・滑車と重り

滑車で重りを持ち上げたり降ろしたりして、窓を上げ下げする重さとのバランスを保っているよ。
お金や書類の出し入れをする場所なので、窓が落ちて手に怪我をしては大変です。
途中で窓が落ちないような仕組みになっているので、実際に触ってみよう。

模型が置いてあるので、ぜひ窓の仕組みを体験してね。



三条通

①金庫室（きんこしつ）
たくさんのお金をしまっておく金庫として使われていたんだ。屋根も壁もとっても分厚くて、ぜったい泥棒には入られないぞ～。

②渡り廊下（わたりろうか）
この屋根のついた渡り廊下は、最初からあったんだよ。きっと金庫室へは、ここを通ってお金を運んでいたんだな。

③トイレ
このトイレは、京都文化博物館ができるときに新しく作られたものなんだ。でも、もともとのトイレもこの辺りにあったよ。

④営業室（えいぎょうしつ）
銀行員さんが仕事をしていたところ。
何人ぐらいいたのだろう？

⑤所長室（しょちょうしつ）
この銀行で一番えらい所長さんの部屋だよ。

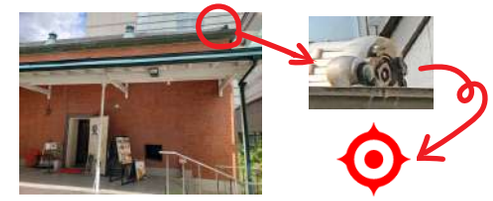
⑥応接室（おうせつしつ）
特別なお客さんはここにすわっていたのかな？

⑦客溜まり（きゃくだまり）
銀行にやってきたお客さんがいるところだよ。

⑧風除室（ふうじょしつ）
扉から入ってきたら、また扉があるね。
外からの寒ぅ～い空気や風が、一度にたくさん入ってこないようにするためだよ。

何のマークかな？

喫茶店「前田珈琲」が入っている建物を見上げてみよう！
屋根の上の鬼瓦に何かのマークが見えるよ！
きっと一度は目にしたことあるマークだけどわかるかな？



正解は・・・日本銀行の行章（マーク）

前田珈琲がある建物はかつて日本銀行の金庫室だったため日本銀行のマークがデザインとして取り入れられています。
日本銀行のマークはお札にも付されているので、皆さんも一度は目にしたことがあるはずですね！持っているお札にもこのマークが印刷されているので探してみてね。

ここは何をする場所かな？

入口を入ると、飾りのついた柵のようなものが並んでいるよ。
これは一体何をするところかな？



正解は・・・銀行の窓口

ここは銀行の窓口として使われていたよ。
現在は使用してないけれど、かつて銀行だった頃の窓口を再現しているよ。